

氏名 出口 紫帆

法科大学院等の在籍年次 3年

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながら書き込んでいってください。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

事務所：萬國法律事務所（台湾）

期間：3週間

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

・事務所構成と業務内容

萬國法律事務所は、主に3つの部署に分かれています。

A部：訴訟事件を主に扱う

B部：非訟事件（渉外など）を主に扱う

C部：IP（特許・著作権などの知的財産）を主に扱う

・インターンシップの内容

わたしは、B部に配属されたため、主に渉外の案件に多く携わらせていただきました。

主とした業務の内容は、日本のクライアントへ送付するメール、資料、論文等の日本語チェックや、日本の法についてのリーガルチェック、クライアントとの打ち合わせに同席するなどでした。

インターンは、月曜から金曜の週5日、朝8：30～17：30まででした。

そして、インターン生各1人につき、配属された部署の中で日本語が堪能な方がメンターとして業務中だけでなく、滞在中様々なことをサポートしてくださいました。

3 宿舎及びその他の生活環境について

事務所から徒歩10分ほどのホテルに宿泊しました。

事務所の近くで駅もあり、栄えており、スーパーや薬局、飲食店がたくさんあり、不便は感じませんでした。

また、台北市自体、MRT（台湾の地下鉄）や、バスといった交通網が発達しており、事務所、ホテルにはWi-Fiもあり、ネット環境も整っていたため、とくに不便はありません。

4 出発に向けた準備等について

事務所の方からは必要な情報等は最低限しかいただけないので、自分からお世話になる先生に連絡を取り、必要な物等を知るところからはじめました。

準備としては、ホテルや航空券の手配、台湾法・台湾の文化（マナー）等について基礎知識を得ておく、中国語の本を用意しておく、などでした。

5 インターンシップに要した費用

宿泊費：およそ10万円

滞在費：およそ5万円

航空券代（およそ4万円）は大学側が負担してくださったので、自己負担はの費用は15万円ほどでした。

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

インターンシップに行く前も、行った後も、自分からインターン先の事務所にいろいろ尋ねるべきです。受け身で待っていては、もったいないです。また、言葉の壁はたしかにありますが日本語、英語で十分コミュニケーションは取れます。コミュニケーションをとることを怖がらない、恥ずかしがらないことが大事だと思います。

そして、台湾にインターンに行く人向けになりますが、行く前に荷物など過度に心配しなくても、だいたいのは台湾でも揃います。数週間の滞在ということで、心配になってあ

れこれと持っていきがちですが、持っていかなくて大丈夫です。

私は、台湾滞在中にもっと中国語を勉強しておけばよかったととても後悔し、滞在中中国語をネットや本で勉強し、メールは中国語で返す、一人で行動しているときは、街で中国語しか使わないルールで行動する、コンビニで覚えた単語はすぐ試してみるなどし、なんとか中国語を現地で吸収しようと思いました。このくらいの気持ちで、インターンに行く前に外国語を勉強しろとはいいいませんが、インターンに行く前に、少しでも現地の言葉を覚えていけば、もっと有用なものになると思います。

そして、現地に滞在するときは、台湾は日本語が通じがちで、事務所も日本語が話せる方々はたくさんいるので、つつい日本語を使いがちですが、たくさん現地の言葉を使い、言語についても吸収して帰ってくるべきだと思います。

法律の知識については心配しなくても大丈夫です。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

このような海外インターンシップ制度は、私はとても有用なものであると思います。海外の事務所に行くことは、直接司法試験に関わりはしないと思います。しかし、将来法曹になった後に何になりたい、何がしたいということを考える上でとても有意義なものだと思います。実際に私は将来涉外業務を行う弁護士になりたいと思っていたのが、より強く思うようになりましたし、英語だけではなく中国語も勉強し、コミュニケーションを取れるようになりたいと思うようになりました。このように、一度勉強漬けの毎日から離れて、自分が法曹になってやりたいこと、興味があることを見つめ直すことができるとても良い機会だと思います。

また、海外の弁護士の方々と繋がりができる、その国におられる日本の弁護士の方とも繋がりが持てるという点で自分の将来にとってとてもプラスになると感じます。

たしかに、司法試験には直結しない、むしろ試験勉強はなかなかできない数週間を過ごすことになります。しかし、わたしは3Lの夏という一番司法試験に向けて勉強しなければならないのではないかという時期に海外インターンシップに行きましたが、上記のような意味で行ってとても良かったと思いますし、ぜひ迷われている方は行くべきだと思います。